

1 今^①は昔、竹取の翁といふもの^㉞Aあり^㉞けり。野山にまじりて竹を取り^①つつ、よろずのことに使ひ^㉞けり。

名をば、さぬきのみやつこ となむいひ^㉞ける。その竹の中に、もと光る竹なむ^㉞一筋^{ひとすじ}あり^㉞ける。

あやし^②がりて、寄りて見るに、筒の中^㉞B光り^㉞たり。

それを見れば、三寸^③ばかりなる人、いと^④ うつくしうて^⑤ め^㉞たり。

2 これ^㉞やわが求むる山^㉞なら^㉞ む^㉞と思ひて、さすがにおそろしく^⑥おぼえて、山のめぐりを^㉞さしめ^㉞ぐらして、二、三日ばかり、

見^⑧歩^㉞りくに、天人のよそほひしたる女、山の中よりいで来て、銀の金椀を持ちて、水をくみ^㉞歩^㉞く。これを見て、船より下

りて、「この山の名を何と^㉞か申す」と問ふ。女、答えていはく、「これは、蓬萊の山なり。」と答ふ。

これを聞くに、うれしきこと かぎりなし。

その山^㉞C、見るに、さらに登る^㉞べき^㉞ やうなし。その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木^㉞ども^㉞立てり。

金・銀・瑠璃色の水、山より流れいでたり。それには、いろいろの玉の橋渡せり。そのあたりに、照り輝く木^㉞ども^㉞立てり。

その中に、この取りて^㉞まうで来^㉞たりしは、いと^㉞ わろかりしかども、D(3)が^㉞ のたまひしに^㉞違はまし^㉞ かばと、この花を

折りて^㉞まうで来たる^㉞なり。

3 Eは^㉞御文^㉞F、不死の薬の壺^㉞G並べて、火をつけて燃やすべき^㉞よし^㉞H仰せ^㉞ たまふ。

I(2)が^㉞そのよし^㉞Jうけたまはりて、^{つわもの}士^㉞ども^㉞Kあまた^㉞ 具^㉞して山へ登りけるよりなむ その山を「ふじの山」とはなずけ

ける。
その煙^㉞L、いまだ雲の中へ立ち登るとぞ、言ひ伝へたる。

=====

1. ①～⑨の現代語訳を答えなさい。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ①() | ②() | ③() | ④() |
| ⑤() | ⑥() | ⑦() | ⑧() |
| ⑨() | ⑩() | ⑪() | ⑫() |
| ⑬() | ⑭() | ⑮() | ⑯() |
| ⑰() | ⑱() | ⑲() | ⑳() |
| ㉑() | | | |

2. ㉞～㉞の働きを、次から選びなさい。

㉞() ㉞() ㉞() ㉞() ㉞() ㉞() ㉞()

A. 可能(…できる) B. 現在進行(…している) C. 反復(何度も…しては) D. 断定(…だ。) E. 疑問(…なのか?)
F. 過去(…した) G. 推定(きっと…ろう)

3. A. ～K. に当てはまる一文字を答えなさい。ただし、カッコがあるときは、カッコ内の文字数で答えなさい。

A.() B.() C.() D.()が E.()は F.() G.() H.() I.()が J.() K.()